

令和元年度(平成31年度)の林木育種技術講習会について

令和2年2月3日

東北育種場では、東北各県からの要望に応じて、つぎ木増殖の方法や採種穂園の管理等についての講習・指導を実施しています。令和元年度は、これまで青森県、岩手県、宮城県、山形県、新潟県からの要望を受けて、カラマツやスギのつぎ木によるクローン増殖や、スギ採種穂園の樹形誘導・施肥等についての講習・指導を実施しました。

カラマツは近年、造林用樹種として需要が増しており、東北各県でもカラマツ苗木の安定的な供給を目指し採種園の造成を計画しています。平成31年4月には岩手県、宮城県、山形県の職員等を対象に、カラマツつぎ木増殖の手法について、実技指導を交えた意見交換を行いました(写真-1)。

スギにおいては少花粉品種等の開発や農林水産大臣から特定母樹が指定等され、東北各県でもこれらを導入した採種園が造成され種子の生産が行われています。令和元年5月には青森県の職員等を対象として、スギのつぎ木増殖手法に関する実技指導を交えた意見交換を行いました(写真-2)。

各県で造成されたスギの採種穂園では、良質な種子やさし木用の穂木を生産するため、植栽されている採種穂木への樹形誘導や施肥等が行われています。令和元年6月に新潟県の職員等を対象に、スギの採種穂木の樹形誘導・施肥等について、実技指導を交えた意見交換も開催しています(写真-3)。

今後も引き続き、関係各所の要望にお応え出来るよう各種の講習・指導に取り組んでまいります。



(写真-1) カラマツつぎ木手法の実技指導



(写真-2) スギつぎ木手法の実技指導



(写真-3) スギ採種穂木の剪定に関する実技指導

(東北育種場)